教育職員課程の履修の流れ

工学部 電気電子工学科

本学の教員養成の目標	電気電子工学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	工業・情報の領域の確かな基礎を持ち，新しい技術に柔軟に対応でき，コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論					
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目				特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
	教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法A	工業科教育法B		
	教科に関する専門的事項	電気回路Ⅰ及び同演習	電気回路Ⅱ及び同演習 電磁気学Ⅰ	電気回路Ⅲ 電磁気学Ⅱ 固体電子工学Ⅰ 電気電子計測		電子回路Ⅰ 電気回路Ⅳ 固体電子工学Ⅱ 電気電子工学実験Ⅱ 工業概論*	電子回路Ⅱ 電気機械工学 電力工学概論	電気電子材料 バイオ・光エレクトロニクス	電気法規
	職業指導					職業指導（工業）*			
教員養成の計画		後期は，電気電子分野の基本となる直流回路および交流回路の基礎知識を講義と演習を通じて習得する。		前期は，実際の交流回路の解析法を習得するとともに，電磁気の場の考え方とベクトル解析手法を身につける。後期は，二端子対回路および過渡現象の解析法を習得するとともに，変動する電磁場の基礎，および，量子力学の概念を理解する。		前期は，電子デバイスの基本動作を理解するとともに，計測機器を用いた実験により電気・電子回路について理解を深め，さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。後期は，電子機器の基本的な動作原理を理解する。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は，専門性の高い科目および電気法規について学ぶと共に，研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は，研修論文のまとめを通じて，コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ，4年間の学習を統合する。	
教科専門科目（情報）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					情報科教育法A	情報科教育法B		
	情報社会・情報倫理						情報社会とモラル*		
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	プログラミングⅠ ※その他の関連科目	プログラミングⅡ コンピュータアーキテクチャⅡA/B	コンピュータアーキテクチャⅢA/B	ディジタル回路				
	情報システム（実習を含む。）				電気電子工学実験Ⅰ	制御工学 センサ工学		ロボティクス	
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）				コンピュータネットワーク*	マルチメディアシステム*	電気電子工学実験Ⅲ		
	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）			アルゴリズム基礎	数値計算法	CAD製図			
	情報と職業					産業社会と倫理	情報と職業*		
教員養成の計画		前期は，コンピュータ・情報処理の分野で必要となるプログラム文法の基礎知識を習得する。後期は，デバック手法の学習によりプログラム開発能力を身につけるとともに，システムソフトウエアの基礎知識を修得する。		前期は，情報システムにおける経営および技術マネジメントの考え方を理解する。後期は，ディジタル回路で必要となる数体系と論理代数，および，コンピュータネットワークの仕組みを理解するとともに，演習や実験によって技能の習得に努める。		前期は，ディジタル技術に基礎をおくマルチメディアの概念を理解するとともに，日本工業規格に基づく製図の知識を習得する。後期は，実験によって講義内容の理解を深め，さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		専門性の高い科目について学ぶと共に，研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は，研修論文のまとめを通じて，コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ，4年間の学習を統合する。	

教育職員課程の履修の流れ

工学部 情報通信工学科

本学の教員養成の目標	情報通信工学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	工業・情報の領域の確かな基礎を持ち，幅広い視野と高い倫理観を持った，情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）			教育実習事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目								
	教育実践に関する科目								
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法A	工業科教育法B		
	教科に関する専門的事項	情報リテラシーI プログラミング入門 ※その他の関連科目	電気回路入門	電気数学	電磁気学I 情報通信工学実験I 電気回路II及び同演習 電子回路I及び同演習	電磁気学II 情報通信工学実験II 通信システムI 半導体デバイス 工業概論* 職業指導（工業）*	電子回路II	音響工学 光通信工学	
	職業指導								
教員養成の計画		前期は情報リテラシーとプログラミング技術についての知識と技能を習得する。後期は，電気回路の基礎について学ぶ。		前期は電気現象の数学的扱いについて学ぶ。後期は，電気回路及び電子回路の基礎知識を学ぶと同時に，演習や実験を通じて回路設計の技能を習得し，講義内容の理解を深める。		前期は，通信技術や半導体の基礎を学ぶと同時に，実験を通じて結果を整理・報告する能力の涵養を図る。後期は，電子回路の設計理論について理解を深める。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は，専門性の高い各論として光通信工学や音響工学等について学ぶ。それと合わせて前期・後期を通じて，卒業研修を実施することで，問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し，4年間の学習を統合する。	
教科専門科目（情報）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					情報科教育法A	情報科教育法B		
	情報社会・情報倫理						情報社会とモラル*		
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	情報工学入門	論理回路 アルゴリズムとデータ構造及び同演習 計算機工学I		ソフトウェア設計	計算機工学II	組込みシステム設計		
	情報システム（実習を含む。）		情報リテラシーII	データベース*			情報理論		
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）		コンピュータネットワークI				通信システムII 情報通信工学実験III		
	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）				コンピュータ数値解析	コンピュータグラフィックス技術* アプリケーション開発			
	情報と職業					産業社会と倫理	情報と職業*		
教員養成の計画		前期は，情報工学の基礎として，コンピュータにおける情報の表現について学ぶ。後期は，コンピュータハードウェアとプログラミングの基礎を学び，それを基にコンピュータネットワークを構築するための知識と技能を習得する。		前期は，情報を構造化するデータベースの基礎について学ぶ。後期は，ソフトウェアの設計手法ならびに数値データの解析技術について知識と技能を習得する。		前期は，コンピュータグラフィックスの作成やアプリケーション開発に関する技術等を学ぶ。後期は，情報理論や通信システムで扱う情報の伝送方法について学ぶ。前期と後期を通して，計算機や組み込みシステムの設計理論を学び，それと合わせて教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期・後期を通じて，卒業研修を実施することで，問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し，4年間の学習を統合する。	

教育職員課程の履修の流れ

工学部 都市マネジメント学科

本学の教員養成の目標	都市マネジメント学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	工業の領域の確かな基礎を持ち，高い良識と倫理観を持った，都市や地域社会のマネジメントに関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論					
教職専門科目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目				特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
教職専門科目	教育実践に関する科目							教育実習事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法A	工業科教育法B		
教科専門科目（工業）	教科に関する専門的事項	環境・防災工学 CEコンピュータ基礎（※その他の関連科目）	CE-CAD（※その他の関連科目）	コンクリート 鉄筋コンクリートⅠ 構造力学基礎Ⅰ 基礎地盤工学 水理学基礎Ⅰ 空間測量Ⅰ 空間測量実習	鉄筋コンクリートⅡ 応用地盤工学 水理学基礎Ⅱ	数理的計画論 都市計画	空間測量Ⅱ 交通計画 社会基盤マネジメント		
教科専門科目（工業）						CE実験Ⅰ 工業概論* 職業指導（工業）*			
教科専門科目（工業）	職業指導								
教員養成の計画		専門科目にかかわる工業・情報の領域の基礎を築くために，前期は，環境と防災分野の基礎と，情報の基礎的なリテラシーを学ぶ。後期は，材料の基礎と，設計に必要となるCAD技術を学ぶ。		各専門分野の基礎を築くために，前期は，材料力学および構造力学，地盤工学，水理学，測量学の基礎を学ぶと共に，空間測量実習により具体的な技術を習得する。後期は，水理学の基礎に加えて，材料力学と地盤工学の応用分野についても理解を深める。		前期は，都市や交通の計画論の基礎および工業概論と工業科の職業指導について学ぶとともに，実験により専門分野を実践的に学ぶ。後期は，交通の計画論とマネジメント論に加えて測量学の応用について理解を深める。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期と後期を通じて，研修への取り組みを通して専門分野に係る現実の社会問題を把握し，それを契機として自己啓発や相互理解と協力に努め卒業論文をまとめることにより，4年間の学習を統合する。	

教育職員課程の履修の流れ

工学部 環境応用化学科

本学の教員養成の目標	環境応用化学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	持続可能な社会の構築に向け，応用化学の発展と地球環境保全の調和をめざす高度の解析処理能力を基盤とした視野の広い工業教育を行う教員を養成することを目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目								
	教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法A	工業科教育法B		
	教科に関する専門的事項	循環型社会形成論 情報リテラシー ※その他の関連科目	物理化学Ⅰ 有機化学 分析化学Ⅰ 化学工学 環境マネジメント	分析化学Ⅱ 無機化学 地球環境科学基礎 大気環境工学	環境化学 表面化学 熱力学 地域環境調査法及び同演習 水環境工学	計測工学 工業概論* 土壌環境工学	電気化学 機能材料 職業指導（工業）* 緑地環境工学	資源循環とライフサイクルアセスメント	
	職業指導								
教員養成の計画		前期は，工学・工業の社会における役割と問題点を，応用化学と環境学の基礎講義を通して理解する。後期は，科学技術者としての倫理観を学び化学物質の社会に与える影響を理解し，持続可能な社会のために必要な仕組みを理解する。		前期は，分析化学の科目を通して分析機器の原理を理解し，物質や環境を分析する基礎知識を習得する。後期は地域環境調査法の科目を通して環境調査の手法を学び，実技分野に必要な基礎知識を身につける。また，専門的な内容を誰にでもわかり易くする説明する能力と論理的な受け答えをする能力を身につける。		前期は，計測に関連する科目を通して多角的に化学的現象を理解・解釈する能力と理解した物事の記述やまとめを行う能力を身につける。後期は，材料に関連する科目を通して材料や化学関連技術が環境・エネルギー問題の解決や持続可能な社会を支える必要要素であることを学び，応用化学技術者を育成する責任の重要性を理解する。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は，科目の総まとめを踏まえて，研修に取り組み，バランスのとれた実践力を身につける。また，学会や科学イベントなどへの参加により，地域との繋がりを実感するとともに化学の魅力を高校生や中学生に伝える方法を身につける。後期は，研修のとりまとめを通じて問題の発見と解決による自発的な課題への取り組みを実践し，4年間の学習を統合する。	

教育職員課程の履修の流れ

建築学部 建築学科

本学の教員養成の目標	建築学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	工業の領域の確かな基礎を持ち，総合的な視野と高い倫理観を備えた，建築に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目								
	教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法 A	工業科教育法 B		
	教科に関する専門的事項	建築入門 建築設計 I 建築表現 建築材料 I	建築計画 I 建築 CAD ※その他の関連科目 ヨーロッパ建築史 建築材料 II 骨組の力学 I 建築環境工学概論	日本建築史 建築材料実験 I 骨組の力学 II 熱・空気環境	建築法規及び同演習 建築計画 III	建築プロフェッショナル論 都市計画 建築設備システム及び同演習 工業概論*			
	職業指導					職業指導（工業）*			
教員養成の計画		前期は，建築入門を通して建築学が包含する広く深い世界に触れながら，設計・製図に必要な基礎的な知識を修得し，平面と立体をイメージして表現する技術を身につける。また，構造材料に関する基礎的な知識を修得する。後期は，計画，歴史，材料，構造，環境に関する基礎を学び，住宅など身近な建物の設計のための知識と技術を修得する。		前期は，歴史，材料，構造，環境に関する基礎を学ぶと共に，演習や実験によって講義内容の理解を深める。後期は，公共施設，商業施設，地域施設などの設計のための知識と技術を修得する。また，関連する法規の基礎を学び，社会に適用できる実践的な力を身につける。		前期は，より広い視点での社会貢献を目指して都市計画，地域計画を学び，また，設備システムを実践的に理解する。さらに現役実務者の講義により，専門技術を活用できる職域を理解し，地域社会に貢献するための基本的，実践的知識を修得する。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		専門性の高い計画，構造等の各論について学ぶと共に，少人数による卒業研修を通して企画力，提案力，分析力，表現力などの力を養い，広く社会に通用する人間力を育み，社会に貢献するための確かな自信を身につける。	

教育職員課程の履修の流れ

ライフデザイン学部 産業デザイン学科

本学の教員養成の目標	産業デザイン学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	工業の領域の確かな基礎を持ち，幅広い視野と高い倫理観を持った，問題把握力とその解決のための具体的な提案力に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論					
教職専門科目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目				特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
教職専門科目	教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）					工業科教育法 A	工業科教育法 B		
教科専門科目（工業）	教科に関する専門的事項	デザイン論Ⅰ デザイン史 ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目	デザイン論Ⅱ 色彩論	デザイン論Ⅲ エディトリアルデザイン論	情報デザイン論 材料学・生産技術 インタラクションデザイン論 エルゴノミクス ユニバーサルデザイン	音と動きのデザイン 工業概論*	デザインマーケティング論	工芸学	
教科専門科目（工業）	職業指導					職業指導（工業）*			
教員養成の計画		前期は，デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。後期は，色彩や配色の基礎を学び色彩の心理的効果等を重視し，適切にコーディネイトできる能力を習得する。前期と後期を通して多岐にわたるデザインの対象を包括的に学びその幅広さと，現代社会でのデザインの有効性，意義を理解する。コンピュータの基本的な使用方法を習得する。		前期は，紙面の基本的な設計方法を習得すると共に，産業とデザイン分野との関係を理解し，現代産業におけるデザインの役割，意義を理解する。後期は，生活の中で使われる様々な工業製品の素材の特性についての知識，人々の活動と情報の関係を理解する。		前期は，人間が感じる「動き」や「音」の特性を理解し，そのデザインの方法を修得する。後期は，デザインとビジネスの関係をデザインの視点から理解し，ビジネスに不可欠なマーケティングという理論や手法を習得する。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は，工芸論の理解にとどまらず，現代の我々が抱える工芸の課題，クラフトデザインについて考える。前期と後期を通して，必修科目である研修を通して，デザインの実践力，応用力，プレゼンテーション力を高める。	

教育職員課程の履修の流れ

ライフデザイン学部 生活デザイン学科

本学の教員養成の目標	生活デザイン学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学などの諸領域を中心に，工学・工業に関わる確かな基礎知識と統合力・デザイン力を持ち，幅広い視野と高い倫理観を有する教員を養成することを目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論					
	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目				特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
	教育実践に関する科目							教育実習事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。					工業科教育法A	工業科教育法B		
	教科に関する専門的事項	地域計画概論		地域防災論		復旧復興まちづくり			
						ユニバーサルデザイン	地域産業論		
					福祉住環境				NPO論
		住まいの計画	住まいの造形意匠	インテリアデザイン	住まいの文化史				
		住まいの構造と材料		住環境の基礎科学	住まいの環境工学		地域環境の保全とエネルギー	住まいの施工と積算	
			生活学演習	地域調査演習					
		デザイン基礎演習		設計CAD演習Ⅰ			設計CAD演習Ⅱ		
		ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目				工業概論*			
	職業指導					職業指導（工業）*			
教員養成の計画		前期は生活デザインの基盤である「地域（空間及び社会）」について学ぶと共に，デザインと製図についての知識と技能を習得する。後期はデザインと製図について引き続き知識と技能を習得する。		前期は環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学等などの基礎を横断的に学ぶと同時に，演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め，ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。		前期は横断的に学んできた環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学等について専門的に学び，演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め，ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は専門性の高い各論として生活デザインについて学ぶのと平行して，前期と後期を通して，問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を，研修を通じて4年間の学習を統合する。	

教育職員課程の履修の流れ

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科

本学の教員養成の目標	経営コミュニケーション学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し，教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを本学の教員養成の目的とする。そして，次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1．学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2．他者との連携や協力をすることができ，円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3．教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4．以上のことを踏まえて，適切な教育実践を行うことができる。	商業の領域の確かな基礎を持ち，幅広い経営に関する知識とコミュニケーションに関する実践力を持った教員の養成を目標とする。

必修科目　選択科目　※下線科目：一般的包括的科目，*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論					
教職専門科目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談に関する科目				特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）				
教職専門科目	教育実践に関する科目							教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習（高）
教員養成の計画		前期は，教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は，教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は，教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また，生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は，特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法，教育相談の理論と方法，そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は，3年次までに培った知識及び技能を基に，「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い，その上で教育実習を行う。後期は，教育実習を通じて，教員になる上での自らの課題を自覚し，「教職実践演習（高）」において，その課題を克服する。	
教科専門科目（工業）	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。					商業科教育法A	商業科教育法B		
教科専門科目（工業）	教科に関する専門的事項	経営学入門 会計学入門 ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目	簿記論 経済学入門 ドキュメントコミュニケーション 統計学入門	経営管理論 マーケティング論 財務会計論 ミクロ経済学 データ分析 社会調査Ⅰ	イノベーション政策論 財務管理論 マクロ経済学 ネットワークとビジネス	ビジネスイングリッシュ データベースと経営		ビジネスロールプレイング	
教科専門科目（工業）	職業指導					職業指導（商業）*			
教員養成の計画		前期は，基礎を学び，経済の仕組みを支えるビジネスの意義を理解する。後期は，経済事象に対する主体性を養い，これらをプレゼンテーションやリポートの形でまとめることで，ビジネス事象に関わるデータの収集・分析力やコミュニケーション能力の涵養をも図る。		前期は，ビジネス上の課題を設定し，理論を用いて計画的に解決する手法を理解する。また，ビジネスの現場で必要となる ICT（情報通信技術）利用に関する手法を学び，情報の的確な処理能力とともに経済事象の分析を通じた課題解決能力を涵養する。後期は，ビジネスの実践について学ぶ。		前期は，ビジネスの現場にとって必要な広範囲にわたる経営に関する知識や英語を含むコミュニケーション能力を深化させ，現場での適応能力を涵養する。前期と後期を通して，教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に，教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は，ビジネスの現場を想定した実践的テーマに基づいたシミュレーションを行うことで現場での適応能力をブラッシュアップする。問題発見から解決方法までのビジネスモデルを，迅速かつ確実な情報処理能力によって，現実社会に即して構築することを目標にこれまで4年間の教科で得た技術・知識・経験を統合する。	